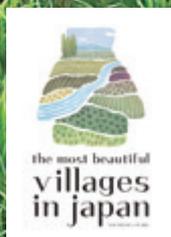
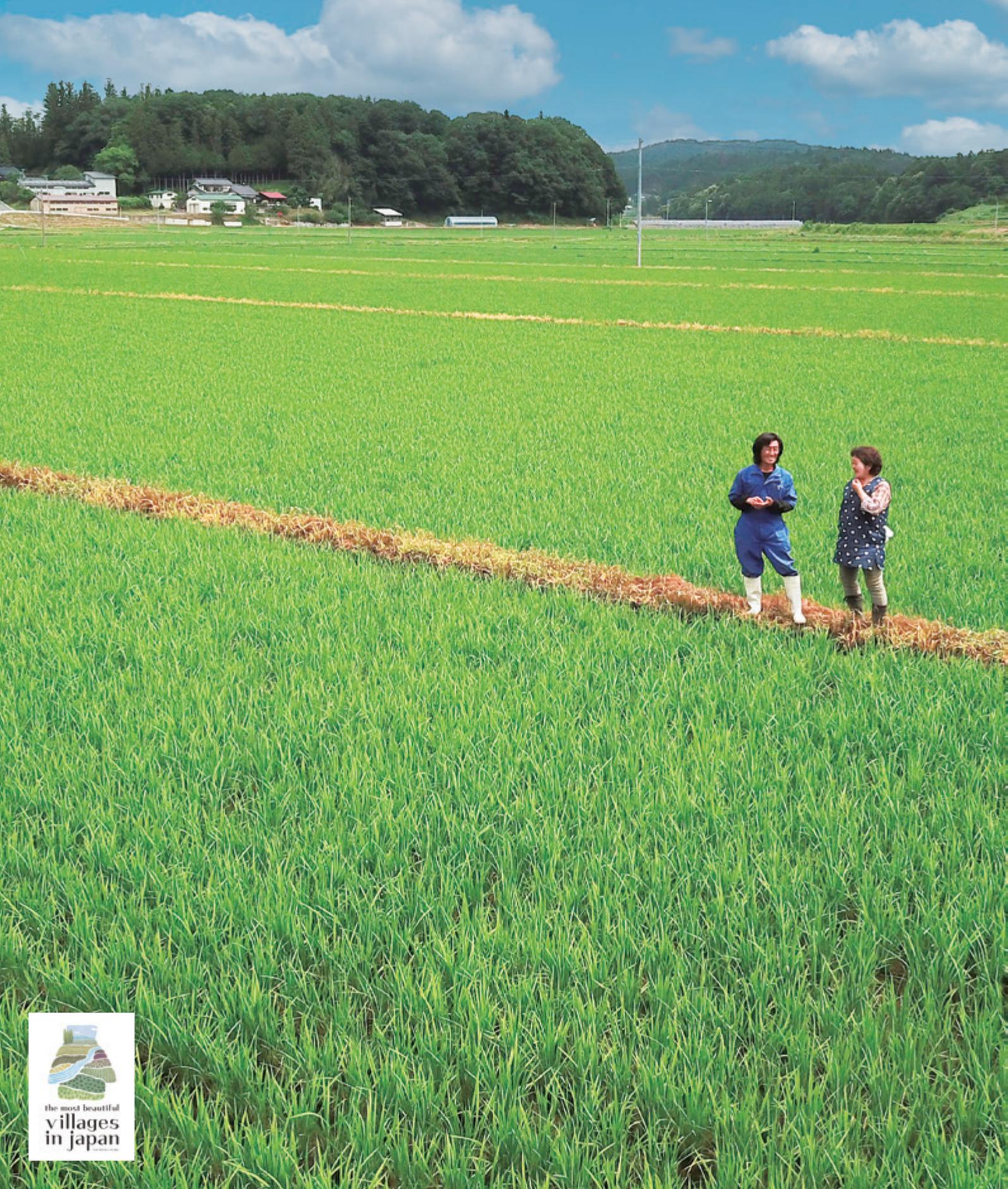


広報 ㊦
No.737
令和7年

いいたて7

www.vill.iitate.fukushima.jp





年々見応えを増している「関沢のアヤメ」。深緑に映え美しい花景色が広がっていました。

目次 CONTENTS

- 02 話題「野原を描こう」
- 04 特集「Challenge 広がる農地」
- 10 学びの広場「こども園親子遠足」ほか
- 11 報告「相馬農業高等学校飯館校見学会」
- 12 お知らせ「みんなで支え合う国民健康保険」
- 14 空から百景「緑深き風の道」
- 16 いいたてイノサル通信 特別編
- 18 報告「6月議会定例会」
- 20 いいたて便り
- 22 話題のパレット
- 23 村からお知らせ
- 24 なりわいREPORT
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 いいたてPHOTOリレー ほか
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS ほか

📷 今月の表紙



平成25年10月
実証栽培ほ場に於て

高野靖夫さん・笑子さん夫婦(前田・八和木)は震災後、農林水産省等の実証栽培に、ほ場の管理者として協力。その地道な取り組みが、村の農地の再生に大きく貢献しました。表紙は今年の6月下旬、「こがねもち」「ひとめぼれ」を栽培する八和木地区のほ場です。高野さんは今年から飯樋地区内のほ場で「あぶくまもち」の栽培にも挑戦しています。P 4 からの特集もご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

野原を描こう
いせひでこ先生・柳田邦男先生と共に



6月10日から12日にかけて、絵本作家のいせひでこ先生とノンフィクション作家の柳田邦男先生による絵画のワークショップが開かれました。
いいたて希望の里学園では前期課程の児童が、絵本「最初の質問」(詩・長田弘/絵・いせひでこ/講談社)の読み聞かせから野原に思いを馳せ、校舎を飛び出し草花を摘んでスケッチ。さらには野原で過ごす自分を思い描いて、1〜3年生が8m、4〜6年生が12mのキャンバスに、大きな野原を



いいたて希望の里学園・前期課程



描き上げました。最後に、いせ先生が立原道造の詩「草に寝て：六月の或る日曜日に」を朗読し、みんなで描いた野原の景色を味わいました。
こども園の園児は、いろいろな形の雲の写真にのびのびと落書き。続いて、身近な草花や野菜から描きたい物を選んで、観察をしながら大きな画用紙いっぱいに描きました。
「心を開放し表現を楽しむ皆さんの表情に出会えるのは無上の喜び」と柳田先生。子ども達は、2人の先生、同行した写真家の石井麻木さんと親しく触れ合い、心ゆくまで絵画制作を楽しんでいました。

までいの里のこども園



写真家の石井さん
柳田先生



子ども達のかたわらに
いせ先生の絵本の世界

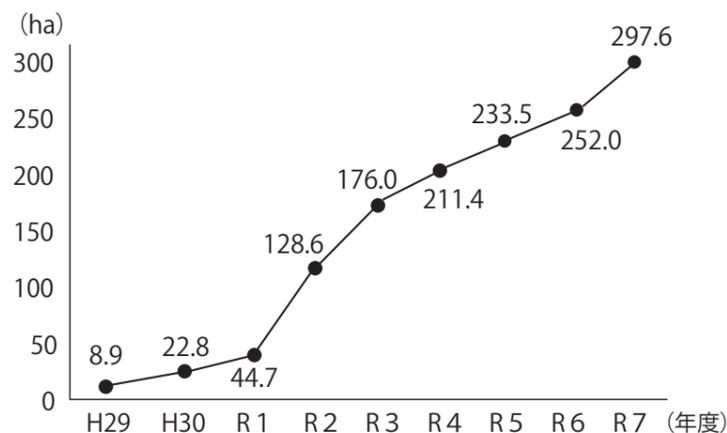


全村避難の期間に、旧草野・飯樋・白石小学校の仮設校舎で、最初のワークショップを開いていただきました。以来、コロナ禍の中断はありましたが、毎年テーマを変えながら、絵画のワークショップを通して、子ども達に寄り添っていただいています。学園にはこの交流をきっかけに誕生した、いせ先生の絵本のコーナーがあります。こども園では、壁面やホールをやさしく彩るいせ先生の作品が、子ども達の日々を見守っています。



いせ先生

村内水稲作付け面積



令和7年水稲作付け

主食用米	118.0ha (加工用13.5ha、輸出米4.8ha、備蓄米1.4haを含む)
WCS用米	59.4ha (WCS=稲発酵粗飼料)
飼料用米	120.0ha
酒米	0.2ha
合計	297.6ha (19地区・36経営体) 令和7年6月17日現在

水稲作付け 東日本大震災以降の経緯

- 平成23年 東日本大震災発災 作付けを見送り 全村避難
- 平成23年 除染と農地の再生に向けた試験作付け・実証実験が始まる
- 平成28年 村内各地で水稲実証栽培を実施
- 平成29年 19行政区で避難指示解除 米の作付けを再開 全量全袋検査を実施し米の出荷を再開
- 令和元年 農地中間管理事業を活用した農地の集積が始まる
- 令和5年 長泥地区の特定復興再生拠点区域等で避難指示解除
- 令和7年 長泥地区の営農再開第1号となる田植えが行われる



Challenge 広がる農地

営農を再開する水田が年々拡大しています。写真は、平成29年に、避難指示解除後の田植えが行われた須萱地区の水田。同年8.9haから再開した水稲の作付け面積は、今年、食用米・飼料用米等を合わせて約300haとなりました。この水田では昨年、飯館村振興公社が担い手となり、食用米と飼料用米を栽培しています。一步一步再生を続ける農地の姿は、担い手の皆さんの努力の軌跡そのものです。

美しい村の水田風景
今年も拡大しています

水稲の作付け面積が拡大しています。

昨年実績では18地区40経営体・約252.0ヘクタールの作付けでしたが、今年6月17日時点のとりまとめで、19地区36経営体・約297.6ヘクタールとなり、作付け面積は約1.2倍に拡大する見込みです。

品種は、例年のように「里山のつぶ」「天のつぶ」の他、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「ヒメノモチ」「こがねもち」「あぶくまもち」、飼料用米の「ふくひびき」と、多品種にわたっています。

東日本大震災の原発事故の影響で、村の全域が計画的避難区域に指定された平成23年4月、飯館村議会の特別委員会は、原発事故の影響を鑑み「生産者としてのモラルに反する」と農産物の作付け見送りを決定。以

来、19行政区で避難指示が解除される平成29年3月まで、6年間にわたり出荷等を目的とした水稲の作付けは行われませんでした。震災前の水稲作付け面積は、715.7ヘクタール。表土をはぎ取り覆土する除染で、手をかけてきた肥沃な土は取り除かれ、米づくりはマイナスからのスタートを余儀なくされました。

避難指示解除から間もない平成29年5月に最初の田植えを行った高橋松さん(二枚橋・須萱)は「震災前の村に歩でも戻りたいという気持ちでやるんだ。飯館の米はおいしいねと言ってももらえるよう、時間をかけて土地を戻していくよ」と笑顔で田を見つめてました。

それから8年。年々広がる水田風景の美しさは、村の誇り。そして、ここに至るまでの道のりと、多くの人の努力を思い返さずにはいられません。



飯館村振興公社(農業部門)

農業部門設立から4年目。今年は昨年の約2倍にあたる約60haの水田で、食用米と飼料用米の田植えを行いました。米の生産と並行し、畦畔修復、ほ場の均平・深耕などを行い、さらなる農地の再生にも取り組んでいます。「これから村で農業をやりたいと考える人のためにも、休耕地を農地に戻しておくことが大事」と大井利裕部長(草野)。事業が拡大する中、「若手が技術を習得できるようにしていきたい」とその先も見据えます。水稻管理の委託を受けるなど幅広い需要にも対応していて、農繁期を中心に村の農業者の協力も仰いでいます。また、道の駅までい館前の花畑の管理も継続して受託し、観光の振興にも寄与します。



①約20人が農作業を担います。②現場に立ち担い手集団を率いる大井部長。③農業総務係長の志賀隆久さん。「農業に少しでも興味を持ってもらえるよう環境を整えていきたい」。

ライスサプール
株式会社RIESAPEUR

新規参入!



只見町に本社を置く農業生産法人、株式会社RIESAPEUR。米や南郷トマトを生産し、只見町の地域おこしにも携わっています。

同社は、飯館村の農地で来年から米づくりを始める計画で、小宮地区に事務所を設置。今年は飯館村振興公社の農作業を一部請け負い、村の気候を体験しながらノウハウを蓄積していく予定です。この事業を進めるために、飯館村企業雇用型地域おこし協力隊の募集も行なっています。

RIESAPEURの目黒大輔さん(左)と目黒美樹さん。

株式会社ちーのは、国産バイオマスプラスチック(ライスレジン)などの開発・生産に取り組む株式会社バイオマスレジンはホールディングスの系列会社です。令和4年に浪江町に設立され、飯館村には支店を登記。原料となる米の生産をスタートしました。その後、国産プラスチック加工用に政府所有米を売り渡す国の制度ができたことから、現在は食用米を生産しています。

村では八木沢地区と関沢地区に約20haの農地を借り受け、主に主食用米「天のつぶ」を栽培していて一部は輸出用。浪江と飯館、2地域での営農を円滑に進めるため、関沢地区に事務所兼住宅も確保しました。

「地区の皆さんに応援をいただき、お世話になっています」と代表取締役の中谷内美昭さん。今後も農地を拡大し、「10年後には1000haに広げたい」と考えています(!)。栽培方法も先進的で、菌根菌を活用する節水型の農法でメタンガスの発生を抑制。サプライチェーンも巻き込み、レベルの高い脱炭素に取り組もうとしています。他にも、人工衛星から取得する地力や生育状況のデータを元にドローンが自動で可変施肥を行うシステムを導入するなど、さまざまな技術を取り入れ、「産業として農業を発展させたい」と取り組みを進めています。

**農地所有適格法人
野良仕事集団
株式会社ちーの**



村民とつながり営農に取り組む中谷内さん。

農地中間管理事業を活用して農地の集積が進められるのも、担い手の皆さんのチャレンジとたゆまぬ努力があってこそです。**担い手の活躍**



**農事組合法人
13区営農組合**

上飯樋地区(13区)の住民有志による任意団体として平成27年に発足し、令和元年に法人化。地域の農業の再生・振興に大きく貢献し、令和6年9月には第65回福島県農業賞「復興・創生特別賞」を受賞しました。

組合員は8人。農地中間管理事業を活用し集積された農地で、米(稲発酵粗飼料(WCS)・飼料用米)、大豆、デントコーン、牧草などを生産。取引先を開拓し耕畜連携を推進してきました。また、畦畔修復などの作業も受託。安定した経営を続け、村内の大規模農業を牽引しています。

現在約150haの耕作面積を、2年後には200haまで広げる計画で、食用米の生産にも取り組みたいと考えています。若手の補強を進めながら、作業を効率化して休日を確保、大型連休や家族ぐるみの社員旅行も実現しています。



①ユニフォームの作業着で。②ブームスプレーヤーでの作業。オペレーターの確かな技術が大規模農業を支えます。③代表理事の細川強さん。無線連絡で細やかに作業を調整します。



高野森夫さん

飼料用米を中心に稲作に取り組む高野森夫さん(関沢)。息子夫婦の博文さん・友紀さんと共に農業に励んでいます。

避難先の福島市で食用米の栽培を始めた高野さん。村内では平成30年から、飼料用米「ふくひびき」の栽培をスタートしました。毎年稲わらを田にすき込み、播種時の施肥、背負い動力散布機による追肥も行い多収を実現。農林水産省などが主催する「令和5年度飼料用米多収日本一コンテスト」で全国表彰を受けました。また、ドローンを所有し除草剤散布を行うなど、省力化にも取り組んでいます。年々面積を拡大し、今年は約17haに作付け。「代掻きを丁寧にしたこともあり、生育は順調。農業法人や振興公社なども関沢地区で稲作を行っていて、昔ながらの入り組んだ田以外はほぼ田植えが再開された。震災後の状況を考えると、再びこんなに田が広がるとは思わなかったね」。



「村は標高が高い分、高温障害のリスクが軽減されるね」。

蕎麦や野菜、花きの生産者の皆さんも頑張っています。「いいたて雪つ娘」カボチャやナツハゼ、「宇宙エゴマ」などは6次化にも力を入れています。

畑地を生かして

topic1 飯舘村そば勉強会

6月4日、交流センター「ふれ愛館」で、『飯舘村そば勉強会』を開催しました。相双農林事務所農業振興普及部の根本直人さんには「福島県オリジナルそば品種の特徴と栽培について」、浜地域農業再生研究センターの佐藤越萌(こすも)さんには「除染後農地におけるそば生産について」講演をいただきました。生産者の皆さんからも具体的な質問が数多く出され、参加者がノウハウや知見を共有する機会となりました。



topic2 6月の農地にて

この季節ならではの風景が見られると情報をいただき農地の撮影にうかがいました。右下は鮎川邦夫さん(小宮)が営む「あゆかわ農園」の麦秋の風景。金色に光る六条大麦「はねうまもち」の畑です。左下は菅野隆幸さん(関根・松塚)の行者ニンク畑。出荷を終えた畑が花畑に姿を変えていました。



飯舘村未来へつなぐ農業支援事業補助金 〈村単独事業〉

村が指定する推奨品目の作付け、農業の省力化・効率化、農業技術の習得・継承を行うことで、農業経営の発展・安定化を図るため、出荷量・販売額の向上を目的に農作物を栽培するための費用の一部を支援します。

補助メニュー

- 研修・講習等に係る費用への支援 補助率 2分の1 以内(補助上限額1.5万円/人)
- 資格・免許等に係る費用への支援 補助率 2分の1 以内(補助上限額3万円※農耕用大型特殊等※特別枠・ドローン認定制度受講10万円補助)
- 消耗品等栽培に係る費用への支援 補助率 2分の1 以内(補助上限額 個人10万円 法人等30万円)
- 農業用施設・機械導入・修繕等支援 補助率 4分の3 以内(補助上限額75万円)
- 農業用施設・機械の譲渡支援 定額(補助上限額5万円)
- 新品目チャレンジ支援 定額(補助上限額10万円)

申請時に「事業計画書」と「各補助メニューの必要書類」を提出していただきます。「事業計画書」の様式は産業振興課農政係に用意してあります。必要書類は補助メニューによって異なります。

事前申請が必要なものもありますので、活用をご希望の方はぜひお問い合わせください。

問 産業振興課農政係 ☎0244-42-1621

県が高冷地向けに開発したもち米品種「あぶくもち」。村も生産組合の皆さんと共に、「あぶくもち」の復活と特産化に取り組んでいます。

あぶくもち

生産拡大へ前進！飯舘村あぶくもち生産組合

福島県農業総合センターが高冷地向けに開発したもち米品種「あぶくもち」。

飯舘村は、震災で中断された「あぶくもち」の栽培を、福島県相双農林事務所の協力のもとで復活させ、青田豊実さん(前田)を組合長に発足した生産組合と共に、生産拡大に努めています。

昨年収穫された34tの「あぶくもち」は全て一等米で、大手コンビニエンスストア、セブンイレブン・ジャパンの切餅と、「おこわおむすび」に使用されました。一方、村内の飲食店なども工夫を凝らして、「あぶくもち」の加工・販売を行っています。

飯舘村あぶくもち生産組合が、5月中旬から、種もみ用と食用合

わせて約24ヘクタールのほ場に田植えを行いました。また、森永正男さん(前田・八和木)のほ場では、いいたて希望の里学園・前期課程の児童が「あぶくもち」の田植えを体験しました。

毎年最初の田植えには、県と村、双方の職員も参加しています。また、秋の収穫まで、生産組合が主体となり栽培管理を行います。村も県の協力のもと支援を行い、品質・収量を確保していきたいと考えています。

また、今年度から、大内清明さん(佐須)と高野靖夫さん(前田・八和木)の2人が組合に加入し、生産者が5人に増えました。今後の生産拡大に向けて、いっそう期待がふくらみます。



大内清明さん(佐須)は、農地中間管理機構が集積した農地の担い手として、宮内地区で農業に取り組んでいて、今年から「あぶくもち」の生産に加わりました。「宮内地区は土がよくて、いい米が取れます。8haにあぶくもちを作付けしました」。大内さんは、地元の佐須地区の基盤整備が進めばさらに耕作面積を拡大し、最終的には50haまで広げたいと考えていて、農業法人の立ち上げも計画しています。

5人の組合員が生産に取り組みます

右の写真は5月15日に前田地区で行われた今年初の田植え風景。生産組合のメンバーは、右

から青田豊実組合長(前田)、森永正男さん(前田・八和木)、庄司久則さん(小宮)、高野靖夫さん(前田・八和木)。上の記事の大内さんと合わせて5人が生産に取り組みます。



6月14日、15日に行われた相馬農業高等学校飯館校の見学会。ここで学んでいた卒業生や、教鞭をとっていた先生方、さらには卒業生の子どもさんやお孫さんなど150人以上の方が訪れ、思い出を語りました。

飯館校は、村内で唯一の高等学校として、村民に愛され、多くの人材を輩出し、村に賑わいをもたらしてきましたが、震災による避難を経て令和5年に本校に統合され、惜しまれながら74年の歴史に幕を下ろしました。

同校の敷地を含むエリアが産業団地として開発されることに伴い、解体工事が行われるのを前に、見学の機会が設けられました。来場した方からお聞きしたエピソード、恩師や学校に宛てた黒板の寄せ書きなどを通して、懐かしさと感謝に彩られた見学会の様子をお伝えします。

ありがとう 飯館校

相馬農業高等学校飯館校 見学会



memory

思い出の野球ボール
飯館校で野球部の監督を務めていた菅野直芳さん。見覚えのあるボールを拾うと、それはまさに自身の監督時代の記念ボールでした。「その年は、夏の大会で初めて1勝をあげた思い出の年で、見つけた時は驚きと喜びがこみ上げてきました」。



卒業生の菅野みゆきさん(宮内)は同級生と4人で校舎を回りました。調理実習室では授業の話に。「高校生の自分には“鮭のムニエル”がカルチャーショックだったな。実習でつくった料理や当時の失敗談など、青春時代の思い出話に花が咲きました」。



初めての鮭のムニエル

memory

までの里のこども園 3歳未満児 ふかや風の子広場で親子遠足

5月30日、3歳未満児の親子遠足を「ふかや風の子広場」で実施しました。広場の「ひみつ基地どきどき」では、スキンシップやコミュニケーションを楽しむ“ふれあい遊び”を体験したり、思い思いに遊具で遊んだりして、楽しいひとときを過ごしました。保護者の方には、先生方やお友達のご家族と、普段の遊びや成長の様子を話し合える貴重な機会ともなったようです。また、3・4歳児は6月20日に南相馬市の「NIKOパーク」で、5歳児は6月13日に仙台市の「うみの杜水族館」で、親子遠足を楽しみました。



「ひみつ基地どきどき」の木製すべり台の前で。子ども達も家族も先生方も、笑顔いっぱいの遠足でした。

までの里のこども園 3歳以上児 サツマイモの苗を植えたよ

6月6日、園の畑でサツマイモの苗植えを行いました。JAふくしま未来から、今年度も苗を提供いただき、同飯館営農センターの高橋英樹さん(二枚橋・須萱)と風越隼平さん(南相馬市)に、“畑のスーパー先生”としてご協力をいただきました。

子ども達は、うねの間に学級ごとに並び、「大きなサツマイモができるといいな」「焼き芋にしたいな」と期待を込めて、“紅あずま”の苗を植えました。今後も水やりや草取りをしながら成長を見守り、畑での学びを深めていきます。



高橋さんと風越さん(写真右端)がやさしくアドバイス。一人ひとりが心を込めて丁寧に苗を植えました。

いいたて希望の里学園 CRSスポーツ工業が大凧寄贈

6月16日、CRSスポーツ工業株式会社から、いいたて希望の里学園に大凧が寄贈され、いいたてスポーツ公園で凧揚げが行われました。大凧に描かれたイラストは、現在の6・7年生が昨年度に描いたものです。大凧は、春日部市庄和大凧文化保存会の皆さんの協力のもと、前期課程の児童が力を合わせ、見事、飯館村の空に舞い上がりました。子ども達は、「みんなで作った凧が空に揚がってワクワクした」「みんなで協力して凧揚げをする貴重な経験ができた」と笑顔を輝かせていました。



■ 国民健康保険税率と賦課限度額の推移

国民健康保険税の税率は、福島県から示される国民健康保険事業費納付金に基づき、毎年度見直しを行っております。加入者一人ひとりの前年中の総所得金額等に応じて「医療給付費分・後期高齢者支援金分・介護納付金分」の3つの区分ごとに金額を算出し、世帯で合算したうえで、世帯主に対して課税されます。なお、本村では、被保険者の負担軽減のため、基金を活用しながら、令和4年度以降は税率を引き上げず据え置いています。

※所得及び被保険者数に応じて軽減割合が適用される場合があります。詳細はお問い合わせください。

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
医療給付費分	所得割	9.05%	7.90%	7.90%	7.90%	7.90%
	均等割	27,600円	28,500円	28,500円	28,500円	28,500円
	平等割	20,000円	23,000円	23,000円	23,000円	23,000円
後期高齢者支援金分	所得割	3.45%	2.90%	2.90%	2.90%	2.90%
	均等割	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円
	平等割	7,200円	8,000円	8,000円	8,000円	8,000円
介護納付金分(40~64歳)	所得割	4.55%	2.40%	2.40%	2.40%	2.40%
	均等割	15,600円	10,500円	10,500円	10,500円	10,500円
	平等割	7,600円	6,000円	6,000円	6,000円	6,000円
賦課限度額	合計	990,000円	1,020,000円	1,040,000円	1,060,000円	1,090,000円

■ 今後の見込み（上位所得層と帰還困難区域を除く）

19の行政区 平成29年 避難指示解除		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
	税金、保険料	減免	1/2課税	通常課税	通常課税
窓口負担	免除	免除	免除	通常負担	

長泥行政区 令和5年 避難指示解除		~令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度
	税金、保険料	減免	1/2課税	通常課税	通常課税
窓口負担	免除	免除	免除	通常負担	

※後期高齢者医療保険・介護保険も同様の取り扱いになります。

■ 納付方法について

飯館村では、税金や料金のお支払いに便利で確実な**口座振替を推進**しています。この機会に、ぜひ便利な口座振替をご利用ください。

また、口座振替でのお支払いの他に、金融機関やコンビニエンスストア、役場窓口でのお支払い、スマートフォンのアプリを利用してお支払い方法があります。

■ 令和11年度に保険税率を統一化

現在は自治体ごとに保険税を算定し負担していますが、将来的に安定的な国保運営を実現するためには、県全体で支え合う仕組みにすることが必要です。そのため、**福島県では令和11年度の課税から、県内の国保税率を統一化する方針**です。

みんなで支え合う 国民健康保険

国民健康保険は、病気やケガに備えて加入者の皆さんがお金を出し合い、医療費の補助などに充てる支え合いの制度です。

東日本大震災に伴う原発事故の被災世帯は、震災以降、国の特例措置により国民健康保険税の減免や医療費の窓口負担免除が続いてきました。国では、避難指示解除後10年程度で特例措置を見直すとしており、飯館村など平成29年に避難指示が解除された区域は、**令和8年度から課税再開となる予定です。**

問 住民課住民係 ☎0244-42-1619 問 住民課税務係 ☎0244-42-1615

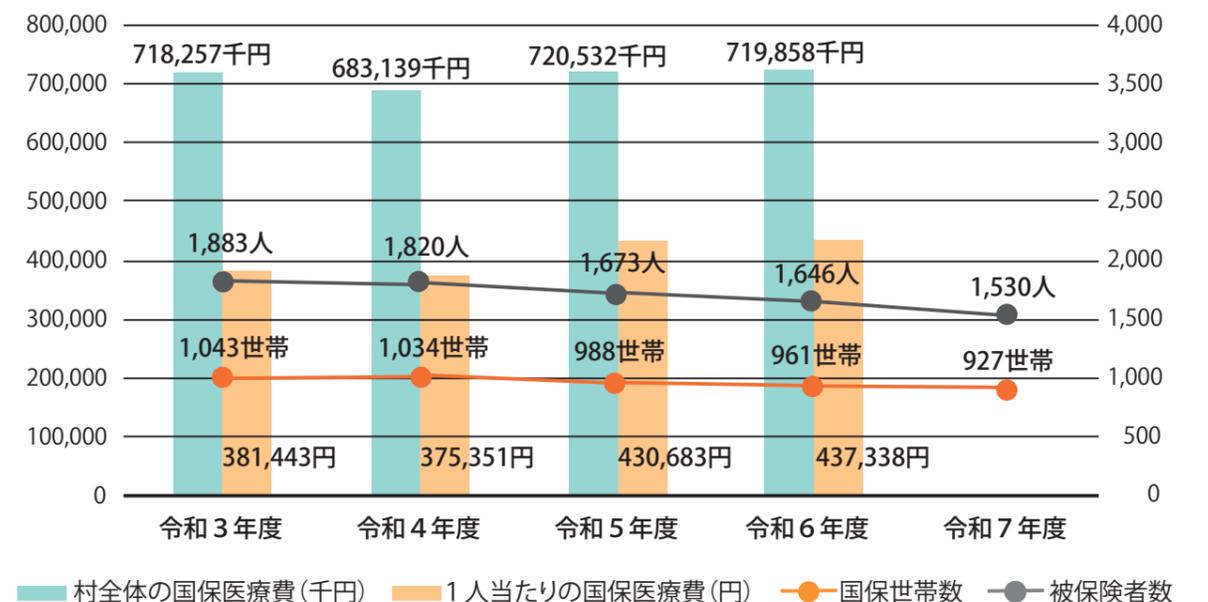
特例措置に関する国の方針 — 国民健康保険・後期高齢者医療保険・介護保険 —

1. 被保険者間の公平性を確保するとともに、十分な経過措置を講じる観点から、避難指示解除後10年程度で特例措置を見直す。
2. 急激な負担増にならないよう、複数年かけて段階的に見直す。
(1) 保険税1/2減免⇒(2) 保険税特例終了⇒(3) 窓口負担(利用者負担)特例終了
※被災世帯でも、上位所得層は減免対象外。

■ 被保険者数と1人当たりの医療費の推移

本村における国民健康保険の被保険者数(加入者)及び世帯数は、**人口減少や後期高齢者医療への移行等により年々減少**していますが、保険者の高齢化や医療の高度化等により医療費全体の金額が下がらないことで、1人当たりの医療費は増加傾向にあります。

〈被保険者数と1人当たりの医療費の推移〉



木陰をわたる風がずっと暑さを和らげてくれる飯館の夏。緑の森を抜けて緩やかなカーブを描く道は、上飯樋の大火地区から比曽地区に抜ける村道です。途中に水神を祀る湧水があり、時折水を汲む人の姿を見かけます。川を堰き止めつくられた農業用ダム「岩部ダム」ではヘラブナ釣りを楽しむ人も、村指定天然記念物「比曽の水芭蕉」もこの道沿いにあります。

防衛 人身被害を防ぐ方法

通常、クマのほうが人間を恐れています。クマは耳がよいので、クマ鈴やラジオなどで音を出して、人間の存在を早く知らせることで遭遇しないように気を付けてください。クマを驚かせない、刺激しないのが基本です。

100mくらいの距離でクマを見たら、背中を向けないように、ゆっくり後ずさりしてその場から移動してください。20mくらいの距離でクマに出会ったら、クマを刺激してしまうので絶対に走って逃げないでください。クマは木登りが得意なので、木に登って逃げないでください。近くに木や電柱などがあれば、その後ろに移動してください。多くの場合、クマの方が立ち去ります。

3m以内くらいの近い距離で遭遇してしまうと、クマが驚いて突進してきたり、攻撃してきたりすることがあります。棒などがあれば反撃した方がよいという意見もありますが、できそうになれば、腹ばいに伏せて、両手で首の後ろを抑える防御の姿勢をとってください。



《できること② 獣害対策を見直す》

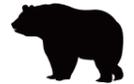
クマが森の中にいるだけなら直接的な被害はありませんが、畑の作物や果樹など、人間の生活圏によい食べ物があることに気づかれてしまうと、人里に出てくるようになるかもしれません。そうなれば、農業被害だけでなく、人身被害も起こりやすくなります。また、秋は冬眠前の季節なので、たくさんエサを食べます。その時に、エサを求めて人里に出てくる可能性もあります。クマを人里に寄せ付けないために、

- ① カキやクリなどの果樹に果実がついたままにしない。
- ② 収穫しない作物や生ごみなど、餌になるものを外に放置しない。
- ③ 定期的に草刈りをして、隠れることのできるヤブをなくす。

この対策を心がけてください。

また、クマの侵入を防ぐには電気柵が有効です。電気柵は草などが触れて漏電したり、バッテリーが弱っていたり、アースの打ち込みが浅かったりすると、電圧が上がらず効果が出ません。電気柵の電圧は4000V以上で効果を発揮します。電気柵を設置している方は、この際に電気柵の管理を見直してください。

**正しく知って、冷静に警戒してください！
この機会に、獣害対策を見直しましょう！**



イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員
京黒 篤志 さん
令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯舘村の主担当となりました。

「クマがいる!？」～私たちは何をすべきか～



佐須地区内でドライブレコーダーに捉えられたクマ。画像の提供は赤石澤典彦さん(大久保・外内)。

5月28日に比叡で、6月2日には佐須で、それぞれクマらしき動物が目撃され、どちらもドライブレコーダーに映像が記録されました。そのうち、佐須で目撃された動物は、色や形、歩き方からクマだと断定できるもので、体長は45〜50cmくらいの若い個体だと思えます。クマが村内にどのくらいいるのか、長く住み着いているのかは分かっていませんが、目撃されていることは事実です。今回は、「村内にクマがいる」ことを前提として、私達にできることを考えたいと思います。

《できること① クマについて知る》

今のところ、村内でクマが畑の作物を食べたとか、人を威嚇してきたということはありません。すぐに発生し得る主な被害は、クマを恐れる気持ちや、よく知らないことから生まれる精神的な被害です。例えば、はっきりしない形の足跡を見るとクマの足跡に見えてしまい、そこから中にクマがいるように思えてきて、農家の人が畑に行きたくないとか、ハンターが狩猟をやめたいなどと考えてしまうことです。

クマに限らず、野生動物には気を付けるべきですが、正しい知識をもって、正しく恐れることが大切です。

特徴 まず、本州にいるクマはツキノワグマといって、北海道にいるヒグマと比べると小型です。成獣(オトナ)の鼻先からお尻までの長さは110cmから150cmくらいで、体重は80kgから120kgくらいです。毛の色は黒色で、胸に白い三日月型の模様があります。走る速さは時速50kmくらいで、木に登ることも得意です。成獣は1頭で行動しており、決まった縄張りを持ちませんが、繁殖期にあたる6月から7月頃には、オスとメスが一緒にいることもあります。

食べ物 植物を中心とした雑食性で、色々なものを食べますが、ドングリやサクラ、ヤマブドウなどの実、植物の葉、芽などをよく食べます。シカやイノシシなどの動物の死体や、弱った動物を食べることもありますが、基本的には人や動物を食べるために襲うことはありません。

痕跡 成獣の足跡は、幅が10cmくらいで、5本の指が前向きに並んでつくのが特徴です。クマ以外の足跡が、時間が経って周囲の土が崩れた場合に、大きな足跡のように見えてクマの足跡と間違えることがよくあります。

糞は人間のものと同じくらいか、もっと大きいものもあります。食べたものによって色や形が様々に変わりますので、決まった色や形はありません。タヌキが「ため糞」といって、同じ場所に糞をして大きな糞の塊のようにすることがあり、それをクマの糞と間違えることもよくある話です。





令和7年6月議会定例会は、6月13日から20日までの日程で開催されました。一般質問は同17日・18日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。
議案審議は20日に行われ、提出された議案はすべて原案どおり可決されました。

今議会で可決された議案など

飯館村手話言語条例

飯館村企業立地等支援基金条例

東日本大震災に伴う国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例

東日本大震災による被災者が属する世帯の第1号被保険者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部を改正する条例

令和7年度飯館村一般会計補正予算

令和7年度飯館村国民健康保険特別会計補正予算

令和7年度飯館村介護保険特別会計補正予算

民事調停の申立て及び調停不成立等の場合における訴えの提起について

**報告第1号
令和6年度飯館村一般会計繰越明許費繰越計算書**

紙面の都合上、一部省略しています。

村長村政報告

長泥地区関係

これまで解除に向けて協議を進めていました、堆肥製造施設及び外縁部除染済み農地の一部の62ヘクタールについて、3月31日午前9時に避難指示が解除されました。

また、避難指示の解除に伴い、資源活用型堆肥製造施設「イイタアバイオテック株式会社」が4月1日より運営を開始しています。引き続き、長泥地区の全域の解除に向けて、尽力していきます。

5月23日に水稲にかかる作付けが長泥地区で再開されました。通常除染が完了し、各種対策が実施された約25アールの水田において、「里山のつづ」を作付けしています。

本年度の作付けで収穫される米は、全量全袋検査を経て出荷される予定です。また、当該地区の保全管理についても、地権者や地区の皆さまと協議しながら順次進めていきます。

ハンドラッグ飯館店

本年3月27日に竣工式を行った村の商業施設で、5月29日に「ハンドラッグ飯館店」がオープンしました。店舗では市販薬、生活雑貨、食品に加え、店内で調理した弁当など、およそ3万点の充実した品揃えとなっております。地元根差した運営として、スタッフも村内の方を雇用いただいています。

「ハンドラッグ飯館店」のオープンにより、暮らしや買い物環境の向上、村内での雇用創出はもとより、ひいては村民の帰還や移住の促進につながり、村の賑わいを生む施設になるよう引き続き支援していきます。

企業立地関係

5月28日にCRSスポーツ工業株式会社と、立地協定を締結しました。

同社とは、令和6年7月26日に事業所の確保や労働力の確保、スポーツ振興などについて協力協定を締結していましたが、

今般改めて計画に基づく事業所の新設や労働条件の配慮など、立地や実際の事業活動が円滑に行われるよう相互協力に関する協定を締結したものです。

村民の帰還状況

5月1日現在の村への帰還者は628世帯、1178人で帰還率は約26.5%となっています。これに、転入者273人と「いたてホーム」の入所者等を合わせ、村内の居住者は811世帯、1510人となっています。

避難を継続している方は、県外避難者が140人、県内避難者は、福島市に1842人、南相馬市に262人、伊達市に228人、川俣町に205人、相馬市に115人など、合わせて2793人です。

健康福祉課関係

新型コロナウイルスワクチン接種関係について、令和6年度から65歳以上の方等に定期接種として行われており、引き続き全額

公費により助成しており、令和6年度は延べ517人に助成しています。

出産に対する支援について、安心して妊娠・出産・子育てができるよう妊婦や子育て世帯へ、国の支援制度である妊娠時5万円、出産時5万円を給付する「出産子育て応援交付金」と、村独自で産時に支給する「赤ちゃん誕生祝金」20万円を支給しています。令和6年度は妊娠時6名、出産時7名の方に計65万円、併せて村独自の支援金「赤ちゃん誕生祝金」については、7名で計140万円を支給しています。

農政関係

水稲について、昨年度実績では18地区40経営体・約252ヘクタールの作付けでしたが、今年度は5月末時点のとりまとめで19地区36経営体・約305ヘクタールとなり、作付面積は約1.21倍に拡大する見込みです。品種は、例年のように「里山のつづ」「天のつづ」の他、「コシヒカリ」

「ひとめぼれ」「ヒメノモチ」「こがねもち」、飼料用米の「ふくひびき」と、多品種にわたります。

福島県オリジナル水稲もち米品種「あぶくまもち」について、今年度も種もみの確保と生産拡大を図っていきます。このため、5月には飯館村あぶくまもち生産組合により、種もみ利用と食用合わせて約24ヘクタールのほ場に田植えを行ったところで、今後秋の収穫まで生産組合が主体となり栽培管理を行っていただきますが、村も県協力のもと、支援を行いながら品質、収量を確保していきたいと考えています。

宿泊体験館きこり 農業研修館きこり

「きこり」の入浴施設の利用者数は、本年4月末時点で4万3693人、素泊まりの宿泊者数については、本年4月末時点で1万943人、また、令和6年5月1日から軽食を提供している「やまぼうし」の利用者数は、本年4月末時点で、2875

人となっております。村民の憩いの場、交流の場として多くの方に利用していただいています。

さらに令和6年7月1日にオープンした「きらり」の宿泊数は、本年4月末時点で260人でありました。今後も各施設の利用拡大に努めていきます。

建設課関係

村営住宅関係では、村内111戸中、現在の入居数は95戸150人で、約85%の入居率です。

長泥地区における帰還再生生活道路整備事業、いわゆる昇口舗装については、5か所について測量設計及び舗装工事を進めています。

村道・河川関係の維持管理では、引き続き村道の草刈り等、村道の維持管理及び橋梁の維持管理に努めていきます。

「農業基盤整備促進事業」による用排水路工事及び暗渠排水工事については、国からの指導により、既設の用排水路及び暗渠排水設備の機能診断を進めていきます。



自然の音や風景の映像とピアノの旋律が織り成す守時さんの音楽の世界に、会場が引き込まれていきました。

飯館の四季を描く音楽家 守時タツミ「景色の見える音楽会」

6月1日、交流センター「ふれ愛館」で、自主文化事業『守時タツミコンサート 景色の見える音楽会』を開催しました。飯館村で守時さんのコンサートが開かれるのは、今回が7回目。再演を楽しみにしていたファンも数多く会場を訪れました。コンサートは2部構成で、飯館の四季を描いたオリジナル曲の他、新アルバムに収録された楽曲や“音えほん”の朗読など、多彩なプログラムをたっぷり。終演後の会場では、久しぶりに再会した人同士が笑顔で語り、感動を分かち合っていました。

CRSスポーツ工業株式会社と 立地協定を締結

5月28日、CRSスポーツ工業株式会社が新たに村内に工場を設立するにあたって、飯館村と立地協定を締結しました。本協定は、昨年7月に締結された協力協定を踏まえ、より円滑な地域連携と事業運営を目的として締結したものです。

協定式では、杉岡村長が「地域の皆様と共に持続可能な発展を目指し、更なる地域活性化を目指したい」と、佐藤充社長が「村民の皆様と率直な意見交換を行いながら、地域活動にも積極的に関わっていききたい」と抱負を述べました。



協定書を手に記念撮影。左から、中川副村長、杉岡村長、佐藤社長、高橋教育長。



当日の利用者さんと記念撮影。大久保さんには記念品として、花の寄せ植えと職員手作りの置物が贈られました。

「つながっぺ」登録者 200人達成セレモニー

サポートセンター「つながっぺ」が、登録者数200人を達成し、6月18日にセレモニーを開きました。

セレモニーでは、飯館村社会福祉協議会の長谷川花子副会長（前田）が「これからも『つながっぺ』をたくさん利用し、元気に過ごしてほしい」とあいさつ。記念すべき200人目の登録者となった大久保静江さん（前田・八和木）は、「昔からの知り合いや、村の人達と一緒にいられる時間ができてうれしい。たくさん村の話がしたい」と語り、利用者の皆さんも、笑顔でセレモニーを見守りました。

村民待望のオープン！ ハシドラッグ飯館店

村が草野地区に整備した商業施設で、5月29日に、「ハシドラッグ飯館店」がオープンしました。

開店から初めての日曜日となった6月1日には、記念イベント『ハシドラLIVE&マルシェ』が開催され、店舗前にキッチンカーや屋台がずらりと並んだ他、コミュニティスペースで多彩な音楽ライブ（左の写真）を催し、来店者を楽せました。※P24の関連記事もご覧ください。



5月29日の開店セレモニー。テープカットが行われ、この日を待ち侘びた大勢の村民が買い物を楽しみました。



署名を終えた協定書を手に、記念撮影に臨む中村代表取締役（左）と杉岡村長。

地域課題解決に向け連携協定 株式会社ネクセライズ

村は、6月19日、エネルギー事業や、防災・減災サービス、脱炭素関連工事などを手掛ける株式会社ネクセライズと「飯館村の地域課題解決に向けた連携協定」を締結しました。本協定は、「地域課題の解決と地域社会の発展」「再生可能エネルギーの導入による脱炭素社会の推進」「充電インフラの整備」「防災教育や防災訓練の共同実施による地域住民の防災意識の向上」を目的としたものです。式では、同社の中村直代表取締役が「当社の知見や技術を役立てていきたい」と抱負を述べました。

わくわく農業体験塾 今年度の野菜づくりがスタート

交流を楽しみながら、野菜づくりを基礎から学べる『わくわく農業体験塾』。栽培・収穫体験はもちろん、新鮮野菜を使った季節の料理教室も計画しています。赤石澤備さん（上飯樋）を講師に、JAふくしま未来・飯館営農センターにもご協力をいただき、5月末から今年度の畑作業をスタートしました。現在は、キュウリ、トマト、ピーマン、パプリカ、トウモロコシなどの夏野菜を栽培中で、12人の塾生が活動を楽しんでいます。皆さんもぜひご参加ください。（参加申し込み [すなお](mailto:すなお@shinano.com) 生涯学習課 ☎0244-42-0072）



5月29日の種まき・定植に続き、6月4日には青空の下、力を合わせて支柱を立て、ネットを張りました。

中学生の海外研修

未来に翼を広げて

歴史の散歩道

震災と原発事故を経験し、避難を余儀なくされた村の中学生に、放射能の影響のない場所でもさまざまなことを体験し、学びを深めてもらおうと、飯館村「未来への翼」海外研修事業が立ち上げられました。最初の訪問地は環境先進国のドイツ。日独協会の支援を受け、環境問題への取り組みを学ぶ旅程が組まれました。参加を希望した18人の生徒が、避難先からドイツへ旅立ったのは、震災からわずか5か月後のことでした。

ドイツでは、歴史的な街並みや農村を巡り、「多機能森林」や再生可能エネルギーの先進地で、持続可能な社会について学びました。10日間の旅を終え帰国した中学生は、福島大学で報告会を行い、苦境に立つ村の目指すべき将来について



平成24年に中学生がシチリアやローマを訪れた「未来への翼inイタリア」。報告の冊子も発行されました。



平成24年の「未来への翼」。ドイツで再生可能エネルギーの理念を学び、故郷の未来について考えました。

考えを発表しました。

平成24年には、「日本で最も美しい村」連合イタリアで最も美しい村協会の協力を得て、「未来への翼inイタリア」も実施されました。子ども達は、旅を通して温かな人々に出会い、視野を広げ、困難な時期も大きく成長を遂げていきました。

子ども達に寄せられた義援金を繰り入れる「いたてっ子未来基金」を活用し、情勢の変化に応じてスタイルを変えながら、「未来への翼」は令和元年まで継続しました。

令和4年度からは、隔年開催の語学研修に発展し、現在は、いたて希望の里学園・後期課程の生徒が、オーストラリアで英語学習と交流の旅を体験しています。

いいたて
なりわい
REPORT
vol.12

村民の皆さんの声に寄り添い、期待に応えていきたい
ハシドラッグ飯館店



県北地方を中心にドラッグストアチェーンを展開する株式会社ハシドラッグが、村が整備した商業施設に、「ハシドラッグ飯館店」をオープンしました。開店は今年の5月。ドラッグストアの村内進出は初めてです。橋浦希一社長は、「村の皆さんの帰還を促進するには、買い物環境の充実が不可欠。復興の一助になりたい」と村民から要望を募り、その声に応えようと日々取り組みを進めています。



上) 同社は震災を機に生鮮食品の取り扱いを始めたそう。店内で調理する惣菜や弁当も充実しています。下) 要望を受けクリーニングの取り扱いを行っています。



ぎも行うこととしました。また、処方箋医薬品の店頭受け取りについても準備を進めている他、「刺身があれば」という声にも応えるべく「月に1〜2回からでも」と体制づくりを検討しています。「皆さんの期待を裏切らないよう、やれることは全部やりたい。要望があれば店頭スタッフに伝えてほしいです。全てが実現できる訳ではありませんが、必ず検討します」。

「病気の予防は、医薬品を扱う者の使命の一つと考えています。私達は、お客様の声を直接聞いて、一人ひとりに合う商品をお勧めできます。気軽に健康づくりの相談をしてほしいですね」。飯館店には現在、社員とパート社員、合わせて13人が勤務していて、そのうち7人は地元からの採用です。また店内には、購入品の飲食にも利用できるコミュニケーションスペースを設けました。「村民の一人になったつもりで、末長く一緒に村を盛り上げていきたいです」。

ハシドラッグ飯館店
飯館村草野字大師堂1
☎0244-26-6975
営 午前9時～午後7時30分



「長くお付き合いいただける店舗にしたい」と若松伸茂店長(右から2人目)。スタッフが親しみやすい接客で、買い物をサポートします。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

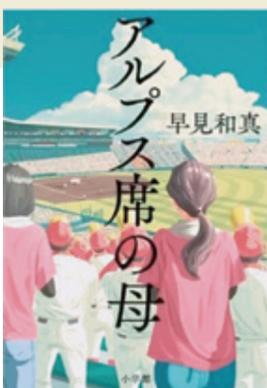
2025年本屋大賞ノミネート作品



カフェ
阿部暁子／講談社

つらい過去を引きずる薫子。心が不安定で、自分自身を助けてあげることができなかつた。そんなとき家事代行サービス会社「カフェ」の仕事を手伝うことになる。誰かのために…その気持ちは繊細で、優しく、とてもあたたかいもの。

2025年本屋大賞ノミネート作品



アルプス席の母
早見和真／小学館

高校球児の母目線での物語。熱くキラキラ輝く甲子園の裏側にはどのような苦労や苦悩があったのだろうか。今年の夏は違う目線で甲子園を見てもみませんか。7月27日(日)に交流センター「ふれ愛館」でサインショーを開催します。わくわくする楽しい時間をぜひ一緒に過ごしましょう。

第33回 杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味



あいらくふるさとみ

盛夏を思わせる暑さが続いた水無月。6月10日～12日の3日間、いいたて希望の里学園で開催された、いせひでこ先生と柳田邦男先生によるワークショップで児童が制作した作品を拝見いたしました。大きなキャンバスに伸び伸びと描かれた絵は、アクリル絵具の特性で意図しないグラデーションも産み出していて、子ども達の心の豊かさに感動しました。両先生方、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

また16日には、CRSスポーツ工業株式会社様と埼玉県春日部市の庄和大風文化保存会の皆様のご協力により、村内で初めての大風あげが実施されました。村の形の中に飯館牛が描かれ、学園生の手形で埋め尽くされた子ども達の夢や希望が詰まった大風です。大風あげに参加した学園生の満面の笑顔に私自身も活力をいただきました。

14日～15日には、「産業団地」の整備に向けて、6月下旬より解体が始まる「相馬農業高等学校飯館校」の見学会を行いました。多くの卒業生を送り出し、村民の皆様にも親しまれてきた学び舎です。見学会は、かつての懐かしい思い出に邂逅するかけがえの無いひと時になったことと存じます。

20日～22日に開催された「バル仙台」に、今年も飯館村が出店いたしました。お酒との相性も良い飯館村産黒毛和牛のメニューが大人気！他にもイカ人參、ナツハゼベール、ナツハゼドリンク、あぶくまもちの苺甘酒、純米酒「復興」、どぶろく「白狼」、Cocittioの焼き菓子、佐須地区の有志の皆様が制作したワインの試飲等々、多様な飯館村のグルメが楽しめるバルとなり、ご来場の皆様にお楽しみいただけただけでなく、引き続き、村産品の魅力発信に力を入れてまいります。

6月議会にて、商工業支援のために5億円の基金を創設いたしました。村内で操業されている企業様はじめ、これから起業や新規参入、事業拡大をお考えの事業者の皆様にご活用いただく様々な補助事業の原資となります。

また今月から随時、企業訪問をさせていただきます。現場の生の声や現況をお聞かせいただき、今後の産業振興や人口増加策に反映していくためです。ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

いよいよ夏本番。皆様には適宜、水分をお取りいただき、体調管理には十分ご留意いただけますようお願いいたします。虫の合唱が響き渡り、美しい満天の星空が見られる飯館村の夏を皆様どうぞ存分にお楽しみください。

ひとのうごき

結婚おめでとう

氏名	行政区
高橋 拓磨さん	伊丹沢
國分 志保理さん	

HAPPY WEDDING!

おくやみ

氏名	年齢	行政区
高野 トシヨさん	95	大久保・外内
菅野 ミヨノさん	69	蕨平
高橋 初子さん	83	長泥
藤井 一二さん	84	上飯樋
菅野 ウメさん	93	前田・八和木
石川 一男さん	86	比曾
佐藤 シツイさん	80	小宮
大渡 正子さん	76	草野
林 次子さん	91	前田・八和木

ご冥福をお祈り申し上げます

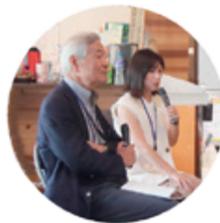
ひとのうごき 令和7年6月1日現在

人口	今月(前月比)	5月1日～31日までの人口動態
●男	2,256人(-1)	転入 8人
●女	2,184人(-5)	転出 10人
計	4,440人(-6)	出生 1人
世帯数	1,802戸(+5)	死亡 5人
		(住民基本台帳人口)

(5月21日から6月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

『第10回飯館YOITOKO発見!ツアー』
『飯館・村内1日バスツアー』を合同開催!

6月7日に2つのツアーを合同開催しました。白山神社(草野)では、多田仁彦宮司から神社の由緒を聞き、村天然記念物「白山神社のケヤキ」を見学。草野館では、南相馬市博物館の佐藤義典学芸員から、山中郷や草野館の歴史について聞き、村民有志の「相馬流山踊り」を鑑賞しました。踊り手は、相馬野馬追での披露時と同じ陣羽織を着用。新開茜衣梨さん(草野)の生歌唱に合わせ、素晴らしい舞を披露しました。



他にも山津見神社でオオカミ天井絵を鑑賞したり、「氣まぐれ茶屋ちえこ」で郷土食を味わい、フリーアナウンサー・小野美希さん(左写真の右側)のトークに耳を傾けたり。飯館の魅力に深く触れながら、参加者同士が交流を深めていました。



YOITOKOツアーに27人、1日バスツアーに23人の合わせて50人が参加しました!



皆さんが広報委員! いいたて PHOTOリレー

月ごとのテーマで写真を募集、エピソードと共に紹介します。



撮影 松原光年さん(小宮)
テーマは「アジサイ」



この写真は今年の6月に松原さん宅の庭を撮影したものです。西洋アジサイ(アナベル)が見頃を迎え、その奥にも色とりどりの花々が咲き誇っています。「このアジサイは、仙台の親戚から1株譲ってもらい、そこから増やして今の数になった。それ以外の花も、友人や知人からもらったり、自分が育てた花と交換したりして育てているもので、いろいろな人との交流を通してできている庭です」。数多くの花を育てることのご苦労を伺

うと、「手入れはもちろん大変だけれど、きれいに咲いた花を眺める度に、その花をくれた人達の顔が思い浮かぶ。そうしてその人達との思い出が、いつまでも記憶に残っていくのがうれしいんです」と笑顔で語ってくれました。花を通じた交流はこれからもずっと、美しい花を咲かせ続けていくことでしょう。

8月号 7/18締切	例えば…「七夕」「ヒマワリ」「花火」「お祭り」をテーマに。	9月号 8/15締切	例えば…「お盆」「スイカ」「夏野菜」「入道雲」をテーマに。
---------------	-------------------------------	---------------	-------------------------------

- 写真様式 データ、現物を問いません。 ■ 写真枚数 1掲載につき1～2枚程度。
- 提出方法 電話で写真の詳細をお聞きした後、相談させていただきます。
- 選考 応募多数の場合は選考します。 ■ 報償 1掲載につき1,500円。

問 村づくり推進課企画定任係(広報担当:巻野) ☎0244-42-1613

間もなくオープン！『マデイズカフェ』

小宮地区に『マデイズカフェ』がオープンします。

ランチは旬の食材を和洋中のメニューで定食風に提供します。ディナータイムは予約制で用途や好みに合わせたメニューやプランが相談できるそう。

「気まぐれなランチです」と笑うオーナー夫婦の佐藤弘典さんと美絵さん。2人で厨房に立ち当カフェならではの多彩な料理を楽しませてくれます。6月25日現在はプレオープン中で予約の

みに対応していて準備が整いつつ第1ランチ営業が始まる予定です。

旧山辺沢集会所の土地が佐藤家に返却され、集会所の建物をカフェにリフォームしました。間取りはそのまま、天井裏にあった梁も生かし、テーブル席の他に畳敷きの小上がりも用意しました。「元は集会所ですから、地域の皆さん、村の皆さんに気軽に利用していただきたいです」。おいしい料理に笑顔の集う日が楽しみです。



競走馬のトレーニングを行う会社に勤務していた弘典さん。子どもの頃から馬がいる生活が自然だったそう。タイミングがよければカフェの近くで放牧の風景にも出会えます。(暑い時期は不在)



飯館村小宮字山辺沢 25-1
☎0244-26-6238

プレオープン中は
不定休で予約のみ

Instagram



2025年
はやま湖まつり

主催 はやま湖まつり実行委員会

真野ダム・はやま湖畔

令和7年7月26日 土

午後1時開場

花火打上 午後7時30分から

天候不順の場合は翌日27日に顺延

午後1時 真野ダム内見学会※先着順(受付 イベント広場)

午後3時 ステージイベント

出演「早野壮とくま」藤田征人と日本舞踊

午後6時40分 特別出演 飯館村大倉行政区神楽

午後7時30分 花火打ち上げ

問 産業振興課商工観光係 ☎0244-42-1620

〈編集後記〉

飯館校の解体前見学会にて初めて校舎に入りましたが、なぜか懐かしさを感じました。見学会に訪れた卒業生やその家族、当時の先生方の声が校舎に響き今もまだ運営されている高校のように賑やかな様子でした。各教室の黒板に記されたメッセージはP11の記事にて、一部紹介しています。当日出会えなかつ

た方々に、広報を通じて思いが伝われば幸いです。(巻野) 6年もの間耕作できなかった農地が息を吹き返し年々目に見えて広がっています。まだいな仕事がつくり出ず里山風景にうっとりです。さらにはお店の開業や交流の催しが続き飯館を大切に思う皆さんの心意気ややさしさにほっこり。素敵な夏の始まりです。(星)